

第5回滋賀県基本構想審議会（9/3）における主な意見

（基本理念について）

- この基本理念の「変わる滋賀 続く幸せ」はいいと思う。外部環境が変わっても内部の人の幸せは続く、「変わる」と「続く」もうまく対比になっている。
- 基本理念は大変いい感じに変わった気がする。「続く幸せ」については、続けられるような幸せ、という風に捉えられ、違和感はない。「変わる滋賀」という部分について、せっかくいいものがある滋賀県が変わってしまう、というようにとらえられた。すべてが変わる、という意味ではなく、P8L9にあるように、変化に対応できる、ということなので、そこがうまく表現できれば、と思う。
- 基本理念の大筋はこれで良いと思う。続く幸せを前にして「続く幸せ 変わる滋賀」としてもいいかもしれない。「未来へと幸せが続く」という、L24のフレーズが良い。だんだんと良くなるイメージがある。
- P8L9の「私たち自らが変わることにより」の「自ら」はいらないのではないかなと思う。幸せの解釈には色々あるが、私の解釈は、普通に生活できることが幸せだと思うが、普段はあまり意識していない。ところが、ことが起こって何か失ったときに、人間は脆弱だと思う。例えば、がんになったとき、今までの幸せが無くなってしまう、ではなく、選択肢を増やしていただくことで、がんになっても治療しながら働くことができる。漫然と幸せが続くのではなく、施策で選択肢を増やす努力することにより、続く幸せがある、と思う。
- 「変わる滋賀 続く幸せ」だけを読むと、「変わる」は無理矢理変えさせられるのか、とか、「続く幸せ」とはどういうことか、とか一瞬考えたが、下の文章とセットで読むと理解できる。みんなにわかるようにプレゼンしていく必要がある。ただ「未知の変化に柔軟に対応し、自ら思いを持って行動する」という意味と理解するが、「自らが変わることにより」の部分はちょっと違和感があった。
- キャッチコピーはこのままでいいと思う。点線の中を読むと良くわかる。守るべきを守り、変わることもできる。これを通じて、「幸せとは何か」と議論してもらいたいのではないかな。
- 最初に「続く幸せ」と見たときは、今人生どん底だ、と思っている人に対してどう見えるかは確かに思ったが、「続」には、SDGsの「持続可能」もかけてあると思ったので、これに代えることのできるワードとなると、思いつかない。
- 「変わる滋賀 続く幸せ」はすごくいいと思った。自分らしさ、というワードも入れていただいているが、それが点線の中に出てくるものが、上のエッセンスのところにもあると良いのではないかな。自分自身の幸せを自分らしくどう考えたらいいのか、ということだと思うので。
- 「変わる滋賀」より、「育てる滋賀」の方が、ただ変化に流される、ということではなく、みんなが参加することが意識されるのではないかな。
- 「続く幸せ」というと現状維持感が強いのではないかな。もうワンランク上を目指すワードは無いかな。
- 「続く幸せ」には、今幸せでない人も対象になっているのか。例えば、非正規、低賃金の人など。小さくとも自分なりの幸せをつくっておられると思うが、ここに書いているような理想的な幸せ、ということになると、時代に合わせて変わりたいけども変わらない人も多くいるので、少し違和感はある。

- 私の感覚からは、「続く」はやや遠く感じる。「つむぐ」の方が、続くよりも一人ひとりが見つけ出す、という言葉でしっくりくるかな、と思った。ただ、普段あまり使う言葉ではないのかな、とも思う。
- 計画の最初に挨拶があり、しくみ的なことが書いてあり、潮流などが書いてあると、読んでいてわくわくしない。基本理念に非常にいいことを書いてあるので、その部分を前にもってきてはどうか。
- 「幸せ」「幸せ」と言いすぎることへの抵抗感もなくはないが、共通の思いとして「幸せ」はワードとしては絶対はずせないという思いもある。幸せの価値観がそれぞれ違う中で、滋賀県民だからこそ感じられる幸福感というのをイメージすればなんとなくみんなで同じ方向を目指せるのでは。
- ここでいう幸せというのは、型にはまったものではなく、自分なりの幸せを続ける、ということかと考えた。

(個別の記載について)

- P10L2の「(1)人 自分らしい未来を描ける健やかな生き方」の中に、どんな形でも社会とのつながりがあるということをぜひ入れてほしい。
- 再挑戦しやすい社会、というのは大変いいと思う。ただ、P11L20の「置かれた状況が固定化されることなく」は少し引っかかる。自分で状況を固定化している人もいるかもしれないが、介護など、自分でどうしようもない状況で固定化されている人もいる。
- 長期離職者、ひきこもり、低賃金、ということは挙げないといけないのか。これらの人は再挑戦すべき人、というようにとられないか。長期離職者や、ひきこもりや、低賃金にもそれぞれ理由があると思うが。
- 介護や子育てによる離職者の再挑戦は絶対必要だと思うので、そこは残してほしい。表現を調整いただきたい。
- 今は選択肢が少ないから、子育て中の人弱者になりうる。そこで行政が選択肢を広げて、弱者にならないようにカバーしていくということが大切だと思う。
- P12L24「大都市近郊にありながら、自然に囲まれた豊かな住環境」の部分はもう少し書き込んでどうか。
- 「若者、女性、高齢者、障害者、、」となっているのが違和感を感じる。女性も働いて当たり前と思っているので。「性別を問わず、男女問わず」などという表現の方が良いのではないのか。P16L39もP13L16も同様。わざわざ特だして書くと、差別が存在しているように思えるのでないか。「性別を問わず」とすれば「男性だけではない」ということが強調されてよいのではないか。
- 多様性については気を配られていると思う。P5L6の記述などはそのとおりで、基本的には、多様性が進めば進むほど社会は頑強なものになり、ダイバーシティはプラスである、というのが基本。その上で、福祉的な視点が必要であれば講じる、というのがスタンスとして正しいのではないか。
- 地域に必要なことを残す判断をする人材育成に力を入れる必要がある。また、今までと同じやり方ではなく持続可能な新しい仕組みが必要。若い人を入れていく、若い人を入れるためには無駄を省くことも必要。「人材育成」と「持続可能」な地域づくり、をコミュニティのところの文章に入れてもらえるといいかと思う。
- コンパクトシティのところで、「誰でも歩いて暮らせる賑わいのある市街地や集落」とあるが、私は余呉に住んでいるが、12年後を考えてみても、現実離れしていて、自分とは関係ないことのように思えてしまう。

- 歩いて暮らせるまち、というのは、例えば京都の都心部の構想としては理解できるが、県全体の基本構想としてはどうか。コンパクトシティの理念は、コアとなる市街地に、ぶどうの房のようなクラスターをつないでいく。その一つ一つの実の中を歩くことができる、ということを目指すもの。この実をつなぐ軸となるのは交通のネットワークである。公共交通や、それが難しい場合、ライドシェアなどの手段がいる。
- P20(5)「その他」の部分の、計画の見直しについての書き振りであるが、この書き方だと「見直しを禁止しない」という消極的なトーンに見えるので、「4年ごとに見直しの必要性について検証する」というトーンにしてはどうか。必要性が無ければ見直しをしなくても良いので。
- その方が、やむなく変える、ということではなくポジティブになるかもしれない。
- SDGsの視点から。目指す2030年の姿は統合的な取り組みであるし、マイナス面にも着目というのもSDGの特徴。
基本理念にもSDGsの考え方が反映されている。そこで、P1の「SDGsの視点を活かします」は、「SDGsの特徴やターゲットを活かします」の方が、よりいいのではないか。また、P3のところでも、滋賀がせっかくSDGsを活かした計画を作っているので「滋賀ではSDGsの考え方が根付いています」などと入れてはどうか。また、経済のP13のESG経営の部分も、「SDGsが経営理念に反映されています」の方がいいのではないか。

